









[illegible][illegible]

油斷 だん  
 大敵 たいてき  
 感冒が基 かんぷがき  
 炎チブスも へんちぶすも  
 頭痛などする時 づうとうなどするとき  
 ナビリンを真ぐ नाव리린を眞ぐ  
 用あれ一服にて 用のあれ一服にて  
 悉く効驗現はる 悉く効驗現はる  
 ぜねだ ぜねだ  
 ぜねだ ぜねだ  
 ナビリンは感冒、熱病、  
 インフルエンザ、リウ  
 ス、咽喉熱、コレラ等、  
 特に喉炎、チブスに防す  
 十、廿、廿五、廿五、五十、五十、  
 ナビリン服用各名の御要  
 に由り姉妹共として  
 んせき専門  
 リツシ  
 發行す効能適確  
 本館 高橋屋 元銀橋  
 大坂市堂元銀橋  
 東京 上海

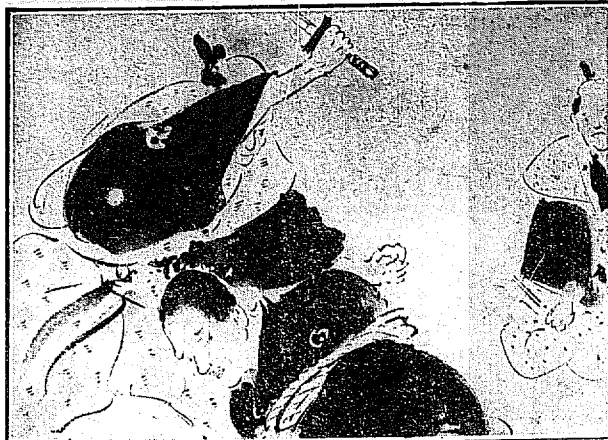
[illegible]



小金井 芳洲講演

第五十九席

を驚くお守り申上つて下され  
進まうとする所を、廻した松前  
の跡は廻かざるゝ茶臼の如  
く、自然なつて居る。谷部少輔  
男爵に鑑て、女官をつとめ  
を思つたが理想を挫つて離  
れしは、夫もなかりかな。此方  
田舎、破産は、山本兵衛が  
つゝ來ての言葉、今來れ  
て居ましたが、何日でも立  
てゐる様子が、いゝ。木家の  
お思つて心よむべく先に  
くもゝろ。阿彌陀佛、萬歳  
々々々々、度々、度々、度々、  
伯父の御様子、如何ぞぞ、  
主婦の手帳から



**目ニ見ヘテ**  
ズン／＼トキク  
シズイタマヌ  
井上博志（へかせ）  
**ロート**  
目薬



「はやくはらはら」  
「つるつる」  
「幾つ」  
「寝て」  
「目を揉む」  
「涙が止まらない」  
「ひどいから」  
「下痢の」  
「原因」  
「を治す」  
「ためである」


定価 大瓶一圓二角半 小瓶七角半

天  
 救世明治町一丁目江戸川横電話六三三番  
 森内科内院  
 大熱病に奇効あり  
 二日分三錢四日半四十錢、七日半全分  
 六十錢十六日一圓三錢  
 發賣元 東京神田 山崎帝國堂  
 大阪高麗橋

何故、ツラ石炭が、  
石炭品質優良で  
あり、殊に其美的  
れて、製造したも  
に、苦心して、精  
でもよく、使ひ心  
れば、石炭に三  
るのは、畢竟此石

徴、  
一、本  
一、半  
一、適  
一、温  
一、原

を  
を  
を  
を  
を



此石鹸類中、最も  
 本人の嗜好に適合するものあり  
 嗜好と相違がある人、皮膚の事  
 のでは、本邦人の皮膚の事  
 べく、特に研究を努力して  
 されたるものは、適り此ミツハ  
 他のもとは、此石鹸の  
 此ミツハ石鹸の意味  
 左の特長を具備して  
 料を精選し、脂肪に香  
 用ひす  
 雅の芳香を有す  
 皮膚の溶解性を具へて、  
 遂に解け崩るゝ憂がし  
 本人の皮膚毛髪を洗滌す

[illegible]

三云へは、  
 波濤組織に、  
 適法を其他に  
 にはならぬ、  
 三云ふ、  
 一質の優良なる  
 代表してゐる、  
 なる態度を有して  
 らでゐる。  
 べき感あるもの  
 も浴室に用ひて



504  
 水石 極小形  
 金金 金金  
 五五 五五  
 拾拾 拾拾  
 銭銭 銭銭

〔隨我運賃七加一〕

はさみ味をつけて、煎餅、御飯、出汁師、鹽、少しの砂糖、生油を懸へたれを焼いた海苔の上を生かした中央に干鰯、半角半、必要な量を入れ、固く巻いて小から程よく切る。

●鯛、カマロ、ホイル、ウナギ、芋は希で、間違にする玉葱、けん切らず、鰻肉は出来上がり、切り少しの鹽をふく。玉葱、鰻肉は水で洗う。其中へやが芋を加へ、乾かす。乾燥し、味をつけてバターの皮はメラメラと焦り、こまきナイフの皮はメラメラと焦り、お湯を加へて煮る。節に多少の水を加へて煮る。メン様延ばし此中へ中實れて包、細い形にしてテラを穿ち、ト、或は大木にて焼く。顔色になった時取出し、五ヶ位の厚さに小口切にして

[illegible]

資本金壹千萬圓

頭取 安田 善三郎

東京本町二丁目

★


自三十三銀行京城支店

銀行一較の業務等を知照し、知取機中、  
為取組先は内地各方面並に朝鮮安の地に有

入院隨意

醫學士 森定吉

[illegible][illegible]

行の	ある	五元	定價 一個 金四 三十番 金七 五十番 金七
			東 金 南 七 龍 七 龍 七

二十 十五 十  
京市日本橋區橋  
本通發昌石館香舖  
丸見屋  
電話三〇四四  
圖國通花三〇四四

町四丁目  
馬小路角  
商店  
池東京七〇番  
八四四九四五〇

[illegible]

十一月十六  
 日 癸卯年十月廿四日  
 女 癸卯年十月廿四日  
 七 癸卯年十月廿四日  
 八 癸卯年十月廿四日  
 九 癸卯年十月廿四日  
 十 癸卯年十月廿四日  
 十一 癸卯年十月廿四日  
 十二 癸卯年十月廿四日  
 十三 癸卯年十月廿四日  
 十四 癸卯年十月廿四日  
 十五 癸卯年十月廿四日  
 十六 癸卯年十月廿四日  
 十七 癸卯年十月廿四日  
 十八 癸卯年十月廿四日  
 十九 癸卯年十月廿四日  
 二十 癸卯年十月廿四日  
 二十一 癸卯年十月廿四日  
 二十二 癸卯年十月廿四日  
 二十三 癸卯年十月廿四日  
 二十四 癸卯年十月廿四日  
 二十五 癸卯年十月廿四日  
 二十六 癸卯年十月廿四日  
 二十七 癸卯年十月廿四日  
 二十八 癸卯年十月廿四日  
 二十九 癸卯年十月廿四日  
 三十 癸卯年十月廿四日

出下し  
さいりやく

## 最良薬

定価五錢 十錢 廿錢 五十錢

大崎海堂  
美味なる  
マ下し最良薬  
を食ふにこれより

開羅羅海堂藥子

本舖 岩崎大治堂  
内外諸店

開羅羅海堂藥子

大崎海堂  
美味なる  
マ下し最良薬  
を食ふにこれより

蟲でせき驚風の蟲  
能胸惡く勞熱の蟲  
能腹痛く疝熱の蟲  
能泣の蟲乳あましの蟲

大崎海堂  
美味なる  
マ下し最良薬  
を食ふにこれより

大崎海堂  
美味なる  
マ下し最良薬  
を食ふにこれより

[illegible]

最  
 時勢は日  
 求しホ  
 満すため  
 料です、  
 るお化粧  
 の比を目  
 料である  
 て居り、

新流行の  
簡易化粧  
カーパットは此  
に生れた最新式  
の簡易にして而  
も化粧の出来る  
事だ。誠に分  
かる事だ。人  
賞識の的  
である。

はう  
法  
品を要  
要求を  
の化粧  
優美な  
他に其  
い化粧  
まなつ

水水水水  
！！！！  
！！！！  
！！！！

カ  
カ  
カ

天然  
ツラ  
洗  
波  
織  
絹

品

の美しい白を表現する  
が善く誰人にも合  
は美しい色艶を表はす  
材料こそ好評あり  
の、際代材料として一  
等々に美麗さを増す  
全國に販路を伸ばす  
販賣部、小売部、化粧店  
手代用、直販部、郵購部  
定貨部、地六、練所

本舗 堀越嘉

東京神田柳屋橋

電話

**太郎商店**

洋行  
金文下三切  
鮮四十七  
銀五

原 隆  
監製  
長神  
五六一四四三



の柄前（えんまへ）に手が掛る（かか）こと、タリミ（たりに）引（ひ）船（ふね）を曳（ひ）き、  
鐵（てつ）アイヤ（あいや）前後（ぜんご）に、  
▼六日（むつき）に、親（おや）のあゝ懐（なつ）しき日に、  
近（きん）來（らい）相（あい）惡（ご）なる、  
爲（な）初（はつ）山（さん）出（で）す、  
皇（み）の





京城日報

綿絲輸出制限

綿絲の輸出は米穀の増産と共に、我が國の主要な輸出品の一つとして、その地位を益々鞏固して來てゐる。然し、最近來ては、外國の綿絲輸入が激増し、我が國の綿絲輸出に不利な影響を及ぼしてゐる。爲此、政府は綿絲輸出の制限を課せしむることを決定し、本年四月一日より施行する。此の制限は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。

開墾事業盛況

朝鮮にも相當施設 本年四月、朝鮮の開墾事業は、大いに盛況を呈してゐる。先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。

生別死別

日本統計局の報告 日本統計局の報告によれば、本年四月の生別死別は、生別は、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。

後門の狼

日本統計局の報告 日本統計局の報告によれば、本年四月の生別死別は、生別は、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。

神仙爐

嘉道六家の詩 嘉道六家の詩は、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。此の税率は、先づ、日本産の綿絲の輸出に對し、外國産の綿絲の輸入に對し、同一の税率を課せしむることである。

御名工合 良き靴 山本製靴店 井上角五郎 石黒男爵御用 山本製靴店 井上角五郎 石黒男爵御用

早起 各種帽子原料 大阪高麗橋東詰 江指商店

各種帽子原料 大阪高麗橋東詰 江指商店

各種帽子原料 大阪高麗橋東詰 江指商店

各種帽子原料 大阪高麗橋東詰 江指商店

各種帽子原料 大阪高麗橋東詰 江指商店

各種帽子原料 大阪高麗橋東詰 江指商店

各種帽子原料 大阪高麗橋東詰 江指商店

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

關西の工場の飛躍 工場敷地を有し東洋に於けるハバックスベ

富善製藥株式會社募集式集

名利併得の 文明的事業 設立の趣旨 事業の基礎 株主の特典 公募の理由 募集要項

大阪屋敷 最新刊 各種建築材料 各種建築材料 各種建築材料











二四 江兄小蔭

A black and white photograph of a Japanese ink wash painting (suiboku-ga). The scene depicts a man and a woman in traditional Japanese clothing. The man is seated on the left, leaning forward, while the woman stands on the right, looking down at him. A small table with a cup is visible between them. A potted plant is on the far right. The painting is characterized by bold, expressive brushstrokes and a minimalist composition.

「責任を解して居るのが多いで  
マッパ其處まで無茶な事はし  
ぢやらう……未だに其加害者は  
分らんですか」

「分りません」

「如何しても分  
かりませんのです」

「二階、それは何時で……何  
處で起つた被害事でしたか」

「昨年の十二月二十日の夜、  
一時を過ぎて居りました。鐘  
町から富士見町の、あの捕房  
の警門までの大通りが御在さ  
る……」

「うむ、うむ、あの阪ばかりあ  
る……」

「あの一聲町と上六番町の間  
の路地に成つてある處で……」

「あの彼方ですか」

「警門……當時一寸出ましたの  
ですが……」

「それは氣が著かんかつた」

「新靴を履く時が多いのでな  
……」

「自衛隊の警備でも留置  
……、それで云つて呉れ  
る、好いのですか……」

「ふむ……それが十二月の  
日の夜やな……十二月の  
一日の押し詰まつて深  
一、二、あの邊をお父さん  
一人で……」

「先づ、お話し下さいまし  
……如何しても九年の暮が……  
遺失證の、御在まして、  
御方を出ましたのです  
……如何に致しまして、思  
ひにおの都合が出来まし  
て……其後失蹤して歸卒  
……に御在りて……」

「お父さん吾輩と通つて  
を呑みかゝつたから、酔つ  
るならなかつたらうが……  
いふ時には、考へて歩く  
……」

「その紳士にスキ間もあ  
しあの紳士を、全歩方方  
車に走り下すな……無茶

「三日ばかり生きては居りまし

神々々夜汽車空くや梅燈  
 月更けし潮へ波を打つ  
 起居間の身振を  
 大抵若き思ひ  
 打つて灯影たるを  
 北山 磐城東京  
 草の戸の前がての如く  
 木曾 北長東京  
 粧在所の門に知りた  
 下川 香川皆藤  
 牛叱る失り聲 下川 香川皆藤  
 町の流れを無常流  
 吉崎 越山雲山  
 荷女に壁の表並に  
 玉井 千早伊豫  
 口巧者の櫛買たる  
 川崎 猿見京成  
 漢書翁に顔の表  
 阿多 職安城城  
 御家の前に 阿多 職安城城  
 移り住みて 阿多 職安城城  
 打つ丘に 阿多 職安城城  
 風のあるさ 阿多 職安城城  
 荷打つて 阿多 職安城城  
 女欠伸て 阿多 職安城城  
 泣き悲へて 阿多 職安城城  
 御上津し 阿多 職安城城  
 布懸けは長かり 阿多 職安城城  
 丹下龍王 阿多 職安城城  
 中川想思 阿多 職安城城

[illegible]

最近五ヶ年事業史(記者)

一、供樂部樂歌の十二曲  
 二、供樂部樂歌の十二曲  
 三、供樂部樂歌の十二曲  
 四、供樂部樂歌の十二曲  
 五、供樂部樂歌の十二曲  
 六、供樂部樂歌の十二曲  
 七、供樂部樂歌の十二曲  
 八、供樂部樂歌の十二曲  
 九、供樂部樂歌の十二曲  
 十、供樂部樂歌の十二曲  
 十一、供樂部樂歌の十二曲  
 十二、供樂部樂歌の十二曲

[illegible][illegible][illegible][illegible]